

## 胃内視鏡のすすめ

内視鏡室 飯尾 澄夫

今年度より公立世羅中央病院にて内視鏡診療（胃カメラ、大腸カメラ）を担当させていただくことになりました。

胃がんは、日本全国で1年間に10万人以上が診断されます。胃がんと診断される人は男性に多く、50歳頃から増加して、80歳代でピークとなります。男性では最も多く、女性では乳がん、大腸がんに次いで3番目に多いがんです。

胃がんの発生要因としてはヘリコバクターピロリ（ピロリ菌）の感染・喫煙があります。そのほか、食塩・高塩分食品の摂取が発生する危険性を高めることが報告されています。

日本人を対象とした研究結果では、がん予防には喫煙、節度のある飲酒、バランスのよい食事、身体活動、適正な体形、感染予防が効果的といわれています。

ピロリ菌は胃粘膜に生息しています。胃粘膜は胃酸に覆われていますが、ピロリ菌はウレアーゼという酵素を出してアルカリ性のアンモニアを作り出すことで胃酸を中和しながら存在しています。感染経路は不明ですが飲み水や食べ物を介して口から菌が入ってしまうことで感染するのではないかと考えられています。日本人の場合、高齢な方ほどピロリ菌に感染している率が高いです。これは水道水などのインフラがまだ整っていなかった時期に幼少期を過ごしたためではないかとされています。ピロリ菌に感染しているだけでは症状などは出ませんが胃潰瘍・十二指腸潰瘍・胃炎の患者さんは感染している方が多く、ピロリ菌を除菌すると再発しにくくなることから感染しているかどうかを診断する高精度な検査方法が普及しています。もしピロリ菌に感染していることがわかった場合は積極的に除菌することがすすめられています。

がん検診の目的は、がんを早期発見し適切な治療を行うことでがんによる死亡を減少させることです。胃がんの検診方法として「効果がある」とされているのは「問診」に加え、「胃部X線検査」または「胃カメラ」のいずれかです。胃カメラはとても苦しい検査であるイメージがあるかもしれませんが、内視鏡機器の進歩によりカメラも細くなっており以前よりも比較的楽に検査できるようになりました。また、ご希望の方は鎮静剤を使うこともできますので気軽にご相談ください。

皆さんの健康の助けになるよう一生懸命頑張らせていただこうと考えています。今後ともよろしく願い申し上げます。